

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月10日
【四半期会計期間】	第54期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	株式会社東葛ホールディングス
【英訳名】	TOKATSU HOLDINGS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石塚 俊之
【本店の所在の場所】	千葉県松戸市小金きよしヶ丘三丁目21番地の1
【電話番号】	047-346-1190（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 高橋 輝
【最寄りの連絡場所】	千葉県松戸市小金きよしヶ丘三丁目21番地の1
【電話番号】	047-346-1190（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 高橋 輝
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第3四半期 連結累計期間	第54期 第3四半期 連結累計期間	第53期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	5,627,584	5,358,258	7,787,209
経常利益 (千円)	298,065	279,925	406,687
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	188,458	177,920	255,294
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	188,458	177,920	255,294
純資産額 (千円)	4,152,969	4,354,830	4,219,806
総資産額 (千円)	6,261,532	6,073,422	6,511,059
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	38.95	36.77	52.76
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	37.75	35.55	51.13
自己資本比率 (%)	65.8	71.1	64.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	112,989	161,600	611,509
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	21,543	298,127	33,463
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	220,714	281,510	268,036
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,536,244	1,234,284	1,975,522

回次	第53期 第3四半期 連結会計期間	第54期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	15.28	7.16

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況

- 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年12月31日）におけるわが国の経済環境は、企業収益の改善の動きは横ばいの状況であり、個人消費についても消費税率の引き上げに伴う影響もあり一時的な落ち込みはみられるものの、雇用環境等は改善の動きを続けており、全体では緩やかに回復しつつある状況で推移しました。

このような環境のなか、当社グループにおいて中核事業である自動車販売関連事業が属する自動車販売業界では、登録車（普通自動車）、届出車（軽自動車）とも、期首よりモデルチェンジ等の効果が持続している車種を中心に販売は堅調に推移していましたが、昨年10月に実施された消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響を受けたこと等から当第3四半期連結累計期間の国内新車販売台数は3,667,001台（登録車（普通自動車）・届出車（軽自動車）の合計。前年同四半期比1.7%減）となりました。

当社グループにおけるセグメント毎の状況につきましては以下のとおりであります。

自動車販売につきましては、新車販売は消費税率の引き上げに伴う影響のほか、量販車種において新型車の不具合による納期の遅延並びに発売延期等の要因もあり販売台数は1,543台（前年同四半期比10.4%減）となりました。中古車販売も下取車や外部仕入により販売車両の確保に努めましたが、消費税率の引き上げに伴う影響もあり販売台数は1,206台（前年同四半期比5.8%減。内訳：小売台数545台（前年同四半期比3.4%減）、卸売台数661台（前年同四半期比7.7%減）となりました。定期点検、車検等の整備を割安でパックにした商品の拡販等により整備車両の確保に注力したサービス売上は堅調に推移したものの、車両販売台数の減少により登録受取手数料等の手数料収入は減少したことから売上高は5,279百万円（前年同四半期比4.8%減）となりました。

その他につきましては、生命保険・損害保険代理店業関連事業において、商品構成の変化等により1件当たりの保険取扱手数料は増加したものの、保険契約件数が減少したこと等から売上高は78百万円（前年同四半期比1.5%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は5,358百万円（前年同四半期比4.8%減）となり、営業利益は266百万円（前年同四半期比6.3%減）、経常利益は279百万円（前年同四半期比6.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は177百万円（前年同四半期比5.6%減）となりました。

これは、中核事業である自動車販売関連事業の売上高が、前年同四半期に比べて減少したことによるものです。

#### (2) 財政状態の状況

##### （資産）

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は2,792百万円となり、前連結会計年度末に比べて704百万円減少いたしました。これは商品及び製品が159百万円、その他の流動資産が9百万円それぞれ増加、現金及び預金が741百万円、受取手形及び売掛金が133百万円それぞれ減少したことによるものです。固定資産は3,281百万円となり、前連結会計年度末に比べて267百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が276百万円増加、投資その他の資産が8百万円減少したことによるものです。

この結果、総資産は6,073百万円となり、前連結会計年度末に比べて437百万円減少いたしました。

##### （負債）

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は1,482百万円となり、前連結会計年度末に比べて585百万円減少いたしました。これは主に買掛金が148百万円、短期借入金が203百万円、1年内返済予定の長期借入金29百万円、賞与引当金が31百万円、未払法人税等が37百万円、その他の流動負債が135百万円それぞれ減少したことによるものです。固定負債は236百万円となり、前連結会計年度末に比べて12百万円増加いたしました。これはその他の固定負債が12百万円増加したことによるものです。

この結果、負債合計は1,718百万円となり、前連結会計年度末に比べて572百万円減少いたしました。

##### （純資産）

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は4,354百万円となり、前連結会計年度末に比べて135百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益177百万円及び剰余金の配当48百万円によるものです。また、自己資本比率は71.1%（前連結会計年度末は64.3%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ741百万円減少し、当四半期連結会計期間末には1,234百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において営業活動の結果使用した資金は161百万円（前年同四半期は112百万円の獲得）となりました。これは税金等調整前四半期純利益279百万円から主に減価償却費84百万円、売上債権の減少額71百万円、賞与引当金の減少額31百万円、たな卸資産の増加額214百万円、仕入債務の減少額148百万円、その他の負債の減少額61百万円及び法人税等の支払額138百万円等を調整したものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は298百万円（前年同四半期は21百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出306百万円、貸付金の回収による収入8百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は281百万円（前年同四半期は220百万円の使用）となりました。これは借入金の返済による支出233百万円及び配当金の支払額48百万円によるものです。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,920,000
計	16,920,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2020年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,840,000	4,840,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,840,000	4,840,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	-	4,840,000	-	211,085	-	200,496

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,837,700	48,377	-
単元未満株式	普通株式 600	-	-
発行済株式総数	4,840,000	-	-
総株主の議決権	-	48,377	-

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式1株が含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社東葛ホールディングス	千葉県松戸市小金きよしケ丘三丁目21番地の1	1,700	-	1,700	0.03
計	-	1,700	-	1,700	0.03

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人A&Aパートナーズによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,975,522	1,234,284
受取手形及び売掛金	1,033,277	899,854
商品及び製品	403,327	563,123
その他	85,037	94,938
流動資産合計	3,497,165	2,792,199
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	468,713	443,782
機械装置及び運搬具(純額)	197,990	197,666
土地	2,109,461	2,420,008
建設仮勘定	10,800	2,458
その他(純額)	4,918	4,428
有形固定資産合計	2,791,883	3,068,344
無形固定資産	528	219
投資その他の資産	221,481	212,658
固定資産合計	3,013,893	3,281,222
資産合計	6,511,059	6,073,422
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	473,995	325,758
短期借入金	1,014,354	810,371
1年内返済予定の長期借入金	29,145	-
未払法人税等	59,756	22,748
賞与引当金	50,224	19,140
その他	439,832	304,263
流動負債合計	2,067,307	1,482,281
固定負債		
その他	223,945	236,309
固定負債合計	223,945	236,309
負債合計	2,291,253	1,718,591
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	211,085	211,085
資本剰余金	200,496	200,496
利益剰余金	3,776,291	3,905,828
自己株式	673	673
株主資本合計	4,187,199	4,316,737
新株予約権	32,606	38,093
純資産合計	4,219,806	4,354,830
負債純資産合計	6,511,059	6,073,422



( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	5,627,584	5,358,258
売上原価	4,370,304	4,118,257
売上総利益	1,257,279	1,240,001
販売費及び一般管理費	972,648	973,430
営業利益	284,630	266,571
営業外収益		
受取利息	806	677
受取手数料	12,881	11,666
その他	4,918	4,964
営業外収益合計	18,606	17,308
営業外費用		
支払利息	5,070	3,953
その他	100	0
営業外費用合計	5,171	3,954
経常利益	298,065	279,925
特別損失		
固定資産処分損	2,583	-
特別損失合計	2,583	-
税金等調整前四半期純利益	295,482	279,925
法人税等	107,023	102,004
四半期純利益	188,458	177,920
親会社株主に帰属する四半期純利益	188,458	177,920

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	188,458	177,920
四半期包括利益	188,458	177,920
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	188,458	177,920
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	295,482	279,925
減価償却費	93,343	84,537
賞与引当金の増減額(は減少)	27,739	31,084
株式報酬費用	5,186	5,487
受取利息及び受取配当金	806	677
支払利息	5,070	3,953
固定資産処分損益(は益)	2,583	-
売上債権の増減額(は増加)	257,655	71,528
たな卸資産の増減額(は増加)	211,891	214,333
仕入債務の増減額(は減少)	96,009	148,237
その他の資産の増減額(は増加)	15,092	8,484
その他の負債の増減額(は減少)	53,865	61,742
小計	284,102	19,127
利息及び配当金の受取額	29	29
利息の支払額	5,131	3,956
法人税等の支払額	166,011	138,546
営業活動によるキャッシュ・フロー	112,989	161,600
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	29,516	306,209
貸付金の回収による収入	8,046	8,046
差入保証金の差入による支出	486	579
差入保証金の回収による収入	413	614
投資活動によるキャッシュ・フロー	21,543	298,127
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	134,828	203,982
長期借入金の返済による支出	37,503	29,145
配当金の支払額	48,382	48,382
財務活動によるキャッシュ・フロー	220,714	281,510
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	129,268	741,238
現金及び現金同等物の期首残高	1,665,513	1,975,522
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,536,244	1,234,284

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 割賦販売によって顧客に販売した自動車にかかる割賦債権については、株式会社オリエントコーポレーションに集金業務を委託するとともに、同社による支払保証を受けております。なお、当該割賦債権の代金回収予定額の約束手形を同社から受領しております。当該受取手形金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形及び売掛金	914,354千円	810,371千円

また、株式会社オリエントコーポレーションが顧客に対して有する求償権に対し、顧客のために、当社は支払いを再保証しています。当該再保証額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
求償権に対する再保証額	11,207千円	5,841千円

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
投資その他の資産	1,600千円	1,600千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
現金及び預金勘定	1,536,244千円	1,234,284千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	- 千円	- 千円
現金及び現金同等物	1,536,244千円	1,234,284千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	48,382	10	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	48,382	10	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	自動車販売		
売上高			
外部顧客への売上高	5,547,982	79,601	5,627,584
セグメント間の内部売上高又は振替高	79	133,997	134,077
計	5,548,061	213,599	5,761,661
セグメント利益	387,341	26,095	413,437

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、生命保険・損害保険代理店業  
関連事業及び鍍金塗装事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	387,341
「その他」の区分の利益	26,095
セグメント間取引消去	3,181
全社費用(注)	131,989
四半期連結損益計算書の営業利益	284,630

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	自動車販売		
売上高			
外部顧客への売上高	5,279,844	78,413	5,358,258
セグメント間の内部売上高又は振替高	142	134,558	134,701
計	5,279,987	212,972	5,492,960
セグメント利益	388,606	25,456	414,062

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、生命保険・損害保険代理店業関連事業及び钣金塗装事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

これまで「新車販売」、「中古車販売」をそれぞれ別の連結子会社で運営しており、前期に当該2社を合併した後もそのまま踏襲しておりましたが、よりの確な経営判断を行うために報告セグメントを見直し、「自動車販売」全体として見ることにしたことから、第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、セグメントの区分を変更した後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	388,606
「その他」の区分の利益	25,456
全社費用(注)	147,491
四半期連結損益計算書の営業利益	266,571

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	38円95銭	36円77銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	188,458	177,920
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	188,458	177,920
普通株式の期中平均株式数(株)	4,838,299	4,838,299
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	37円75銭	35円55銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	152,936	166,458
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月6日

株式会社東葛ホールディングス

取締役会 御中

### 監査法人 A & A パートナーズ

指 定 社 員 公 認 会 計 士 岡 賢 治 印  
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公 認 会 計 士 永 利 浩 史 印  
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社東葛ホールディングスの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社東葛ホールディングス及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。